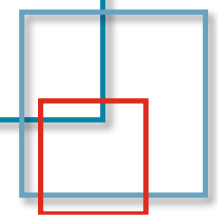


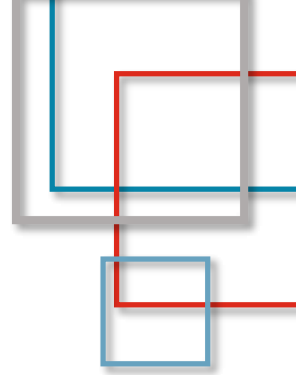


実例。送信レピュテーション強化と効果

株式会社NTTドコモ（ISPぷらら）
辻 浩紀



ISPぷららの紹介

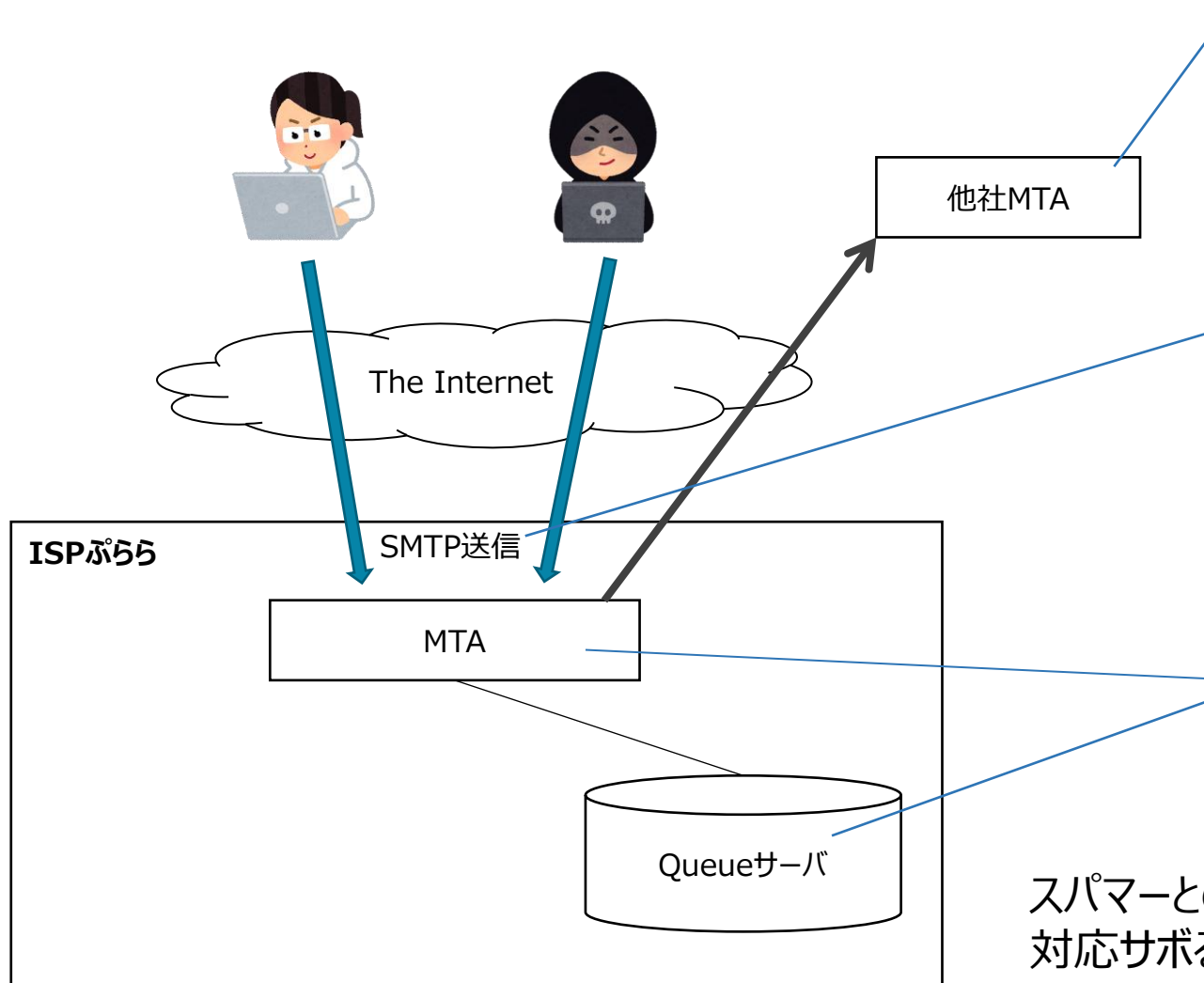


1996年10月 サービス開始

2022年07月 NTTドコモとNTTぷららの合併により、ISPぷららがドコモのサービスに

言いたかったのは「キャリアメール（ドコモ）ではなくISPメール（ぷらら）の話なので誤解なきように」です。

困っていた問題



- ① スпам過多による送信遅延(4XXエラー)
- ② 最悪、受信拒否(5XXエラー)

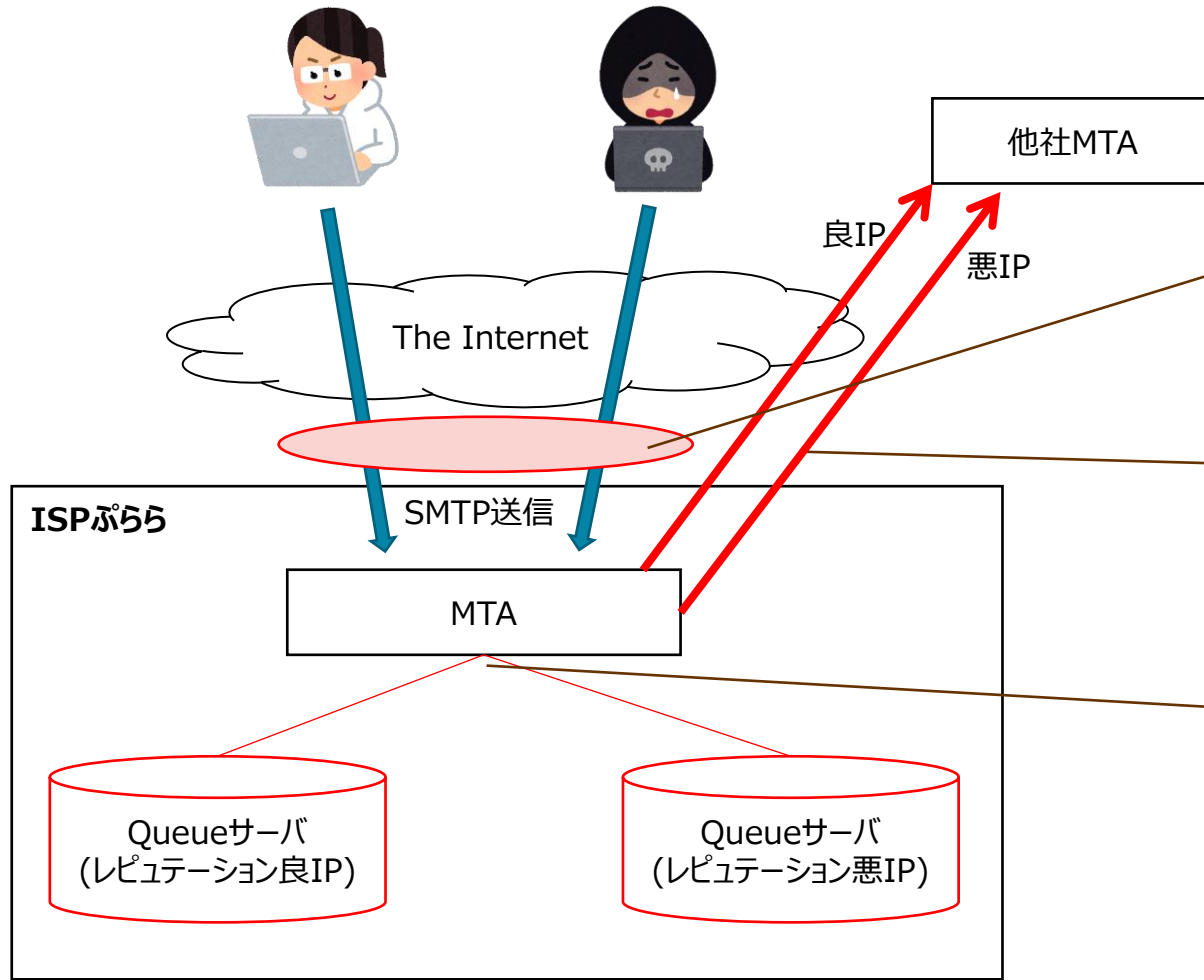
③ 送信レピュテーションをかけるもすり抜け多し。
あまり強くかけると、正規のメールもブロック

④ 滞留キューやMTAログからどれがスパムか調査するも
正規メールと混ざってわかり難い(年々巧妙に)

スパマーとの終わりなき戦いは続き、担当者も疲弊
対応サボるとIPブラックリスト



弊社が実施した対策



狙い

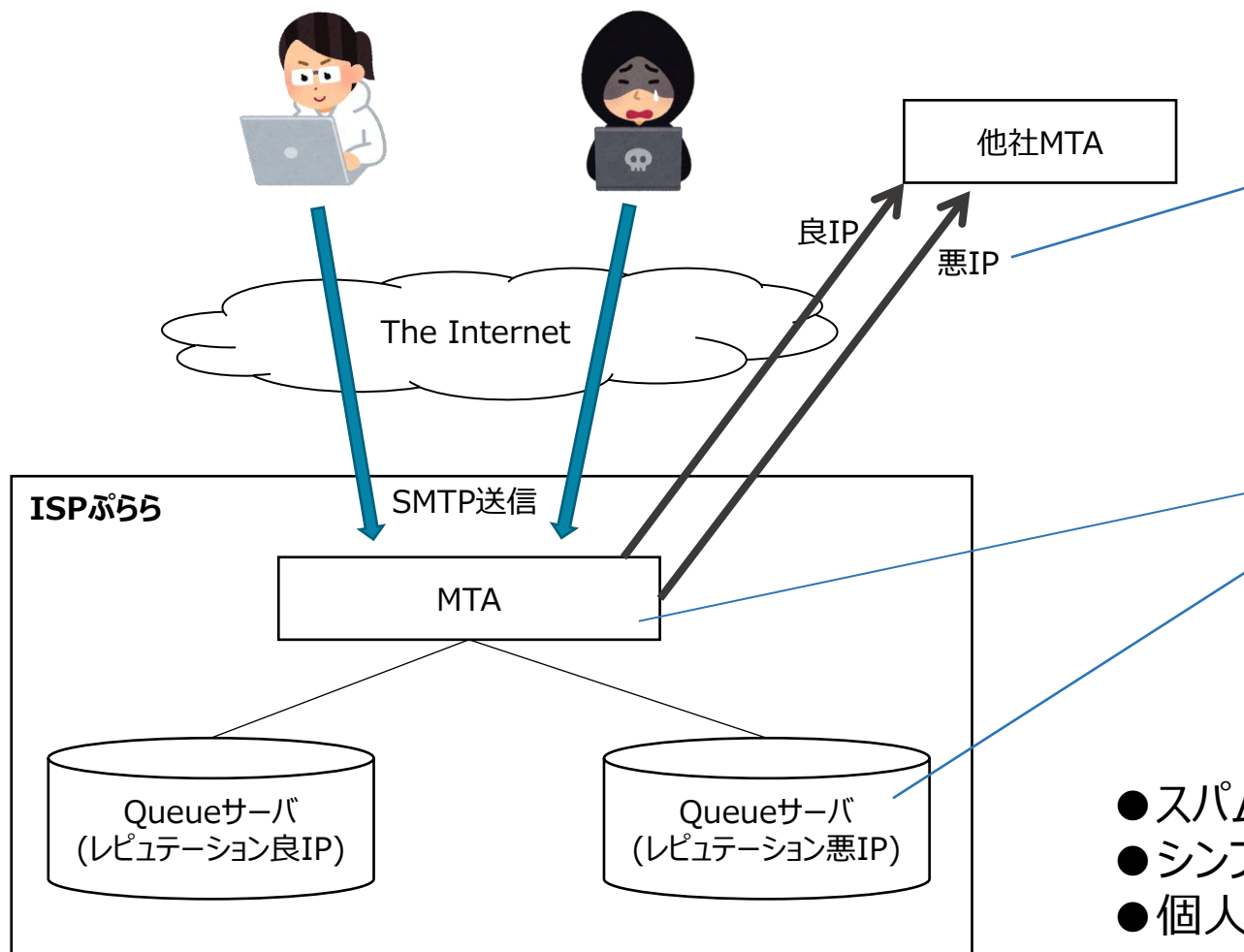
- 1、レピュテーション強化しても正規ユーザを巻き込まない
- 2、スパマーをより分ける

A、送信レピュテーションの強化

B、レピュテーション良し／悪しに応じて、MTAの送信IPを出し分け

C、送信IP毎にQueueサーバを構築

実施結果



- 1、スパム多くても影響受けるのはレピュテーション悪のメール
- 2、結果、レピュテーション良のメールはブロック確率が大幅に減少

- 3、悪IPや悪Queueをキーとして、スパムのより分けが容易となった。結果、スパムブロックしやすくなった
- 4、悪IPはスパム率が高くなったためかスパムが4XXエラーとなりやすくなった。(正しいかは不明) 結果、少量orゆっくりのスパムも捕捉しやすくなった

- スパム対応がかなり楽になった
- シンプルになったのでスクリプト化(自動化)も楽
- 個人的にスパマーホイホイと呼んでます

